

平成29年度高梁市立学校再編推進審議会（第14回）会議録（概要版）

1. 招 集 平成30年2月5日 午後3時00分
2. 開 会 平成30年2月5日 午後3時00分
3. 閉 会 平成30年2月5日 午後4時50分
4. 会議の場所 高梁市役所 3階大会議室1
5. 委員の出欠及び氏名

氏 名	出欠の別
山部 正	出 席
川本 雅子	出 席
肥田 吉教	出 席
湯浅 眞治	出 席
植木 哲夫	出 席
村上 鉄治	出 席
三宅 忠篤	出 席
川上 博司	出 席
黒川 康司	出 席
大川 和恵	欠 席
仲元 稔明	出 席
塩田 寿光	出 席
中山 正浩	出 席
松尾 志郎	出 席
妹尾 芳訓	出 席

6. 事務局の出席者の職氏名

職 名	氏 名
教 育 長	小 田 幸 伸
教 育 次 長	宮 本 健 二
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志

学 校 教 育 課 長	張 谷 孝 文
教 育 総 務 課 課 長 補 佐	西 川 優 子

7. 議事の内容

別紙会議議事要録のとおり

高梁市立学校再編推進審議会（第14回）議事要録概要

1. 開会

2. あいさつ

会長	意見聴取会ではお世話になった。今日は、意見聴取会などで聴取した意見について、今日全て当れるかどうか分からないが、どういった意見があったかを見ていきながら、答申に反映させるかどうかをさび分けていきたいと思う。今日も、様々な忌憚のない意見をいただくようよろしくお願いします。
----	---

3. 議事

1 意見

答申案全体

- 答申案は、大変よい内容であると思う。〈高梁東〉

会長： これでいただく。

- この答申案でよいと思う。中学校は、川上郡で一つとし、早急に実施するのがよいと思う。通学の交通や寮を先に考えた方がよいと思う。〈川上〉

会長： 「通学の交通や寮」の部分について、反映させるかどうかである。

- 保護者や地域がこの答申を見ても、再編する必要はないという見方になると思う。保護者や地域から再編の声が上がるのが理想であるが、この答申では、なかなか上がりにくいだろうという印象を受けた。〈教育委員会〉

会長： 「学校、PTAやまちづくり、コミュニティ協議会等の総意」とあるが、全員が総意となるというのは、非常に難しいので、PTAだけでもまとまった意見が出た場合、準備委員会へ繋いでいくという方向で考えた方がよいのではないかと思う。まちづくりから再編しなさいという事は出てこないのではないか。「総意」を後で変えたいと思う。

再編の賛否

- 子供の事を考えれば、再編もありである。〈有漢〉

会長： これでいただく。

- 自分の経験から、小規模校のメリットは、1年生の時に2年生の勉強ができ、2年生の時に1年生の勉強の振り返りが出来る。5年生から本校へ通うようになり、気後れがし、負けた気がした。多人数の中で育ったのと、少人数の中で育ったのでは違うと感じた。人口減により、友人、競争相手も減る。再編を早めに取り組んだ方がよい。地域の方に委託して、通学の車を走らせることとするなどして、再編を即検討頂きたい。〈高梁〉〈意見書〉

会長： 「地域の方に委託して、通学の車を走らせる」というのは、反映させるべきか。

委員： 載せない方がよい。

会長： 安全面からも公共交通機関を使った方がよいだろう。

- 再編に対して、地域と保護者の意見が異なる。市外から市民となった人は特に早く再編して欲しいと言われる。〈成羽〉

会長： どこかの団体から、早く再編して欲しいという意見が出れば、準備委員会が立ち上がるといことなので、今の答申案に含まれているから、よろしいか。

委員： よい。

- 中学校の再編は、吉備中央町のように思い切って実施するべきである。批判も出るであろうが、子供のためを考えた場合は、行政主導で、早めの再編の決断をして欲しい。〈意見書〉
会長： 行政主導で再編の決断をするわけにはいかないの、答申案に反映させない。よろしいか。
委員： よい。
- 少子化が進む中で、小、中学校の再編は仕方がない。説明はないが、幼稚園も同様に再編を進めればよいと思う。〈意見書〉
会長： 幼稚園については、諮問を受けていないので、答申案に反映させない。
- 再編をせず、現状維持して欲しい。〈高梁東〉〈意見書〉
会長： 意見としてはあるが、再編しないということは、困難と思う。
- 小学校は、再編せず残して欲しい。小学校の複式が1年生と3年生であると、1年生は3年生がどのようなことをしているが分かるからよいが、3年生は、我慢することが多くなる。3年生に補助を付けてもらい、我慢することがないようにしてもらいたい。〈高梁北〉
会長： 2クラスとなった時点での話しなので、基準に当たるので、このような事は考えられないということではどうか。
委員： よい。
- 学校は、地域にとって無くてはならないものである。小規模校は、デメリットが多いように考えられるが、メリットを伸ばせば良い。〈意見書〉
会長： その方向で答申案が作成されている。

市の施策との関連

- 移住などにより、子供が来れば再開できるように、休校にはできないのか。〈高梁東〉
会長： 「休校」についてはどう考えるか。「休校」という言葉を入れるかどうか。
 基準に当たる場合、再編を検討していくが、再編される学校を廃校でなく、休校にしておきなさいということである。そのような事ができるか。
教育長： 休校自体は、制度上可能である。現在も、新見、真庭、笠岡の島など岡山県内でもある。再編しない事を含めて話し合う。再編しない時はどうするかという事を選択肢として、休校ということも考えられる。
会長： 準備委員会の中で、休校という意見があれば、教育委員会で検討していくということではどうか。
委員： よい。
- 再編を言う前に人口を増やすことを考えなければならないのではないかと。本当に具体的に人口を増やすためにはどうすべきかを話すべきである。〈高梁〉
会長： 前書きに書いているが、人口を増やすというようなもっと強調して書いてはどうかと思う。
 再編と人口増は、表裏一体である。よいか。
委員： よい。
- 教育行政だけでなく、市全体で子や人口の減少をどうするかを考えた上で、こういった再編を考えた方がよい。〈高梁北〉
会長： これも前と同じである。
- 移住、定住を進めているのに、再編は相反するのではないかと。〈川上〉
会長： これも一理あるので、よく考えて再編しなければならない。

地域との関連

- 学校再編による地域でのメリット、デメリットをもう少し考えて欲しい。〈成羽〉

会長： これも必要であろう。

- 子供の教育効果も考えなければならないが、学校がなくなれば、地域はさびれてくる。

学校も無い所に、若い人はいない。〈成羽〉

会長： 先ほどの意見と似ており、移住促進には必ず学校が必要であるということ。

- 私が考える基本コンセプトは、「子供を育てるなら高梁」を目標にし、サブテーマとして「環境が子供を育てる。」、「教育とはチャンスを与えること。」と考えている。

会長： 他県他市にないような、魅力ある高梁の教育をというような事を前書きに入れるべきか。

- 少子化による小規模校の増加に対応するため、廃校基準を設けるだけでなく、小規模校のデメリットを特徴としてとらえ、小規模だからこそ出来る「子供の夢を育てる」環境作りをしていく。

会長： 小規模校も出来るだけ残そうという事を既にかなり書いていると思う。

- 縦の関係（小中連携）と横の関係（地域との連携）を考えられているが、核となるのは親であり、よい指導者の発掘である。子供に色々なチャンスを与えるためには、親の理解とよい指導者の育成が必要である。これらの方針を具体化することにより、高梁に住みたい、高梁で子育てをしたい、人が増えてくる、結果として人口減少に歯止めをかけていくことが出来るのではないのでしょうか。〈意見書〉

会長： 内容として答申案の考えと同じなのでよいか。

委員： よい。

部活

- 中学校では、部活の問題をよく聞く。文化部系部活はないとか、運動部系も3つしかなく選択肢が少ないなどの不満がある。解消したいと思っても、地域からの要望があれば検討しますとなると、声の大きい人が勝つので、バランスの取り方が難しいと感じる。そのあたりは、この答申ではどのあたりに加味されているのか。〈教育委員会〉

会長： 部活の意見は、答申案のどこかに入れる必要があると思う。（答申（案）の）4頁の新たな学校制度を研究することの後に、地域からの要望として、文化部を作る、運動部が少ないのでどのように解消するか、子供達が満足するような、全てはできないが研究を、学校と連携しながら教育委員会が行っていく。

委員： 部活について、再編とは別に、高梁全体で中学校の部活という考え方を入れた方がよい。

その他

- 吹屋小学校の再編の時、地域は反対、保護者は賛成であった。保護者が賛成ということであれば、地域も応援しようということになったが、なぜもう少し早く言ってくれなかったのかという意見があった。〈成羽〉

- 幼少期、分校から本校へ行った時、初めて遅れを取っていることが分かった。幼少期の基礎知識、勉学の遅れは、中学校から高校へ進学する時点で影響が出ると考えられる。 〈意見書〉

会長： 答申（案）に書いている、中学校ではある程度の規模が必要であることに含まれると思う。よいか。

委員： よい。

- この答申案では、向こう10年ぐらいは、市全域で再編の心配はないのか。〈意見書〉

会長： 要望が出れば、もっと早く再編に踏み切っていくということでよいのではないか。

委員： よい。

- 学校統合について、今回の諮問に対する答申（案）については、今後の在り方を示すものであり、「再編対象年度の少なくとも3年前から準備委員会を設置し、協議する。」となっている。私は、これで十分だと思う。

地域においては、学校がなくなることの寂しさはあるかも知れないが、教育を受けるのは子供たちであり、教育環境を整えるためであれば統合は必要であると考えます。例えば、中学生の保護者なら3年生進級時の統合には、受験を控えていることもあり、環境の変化を心配するがゆえに反対の立場を取っても仕方がないが、地域が学校存続を望むのであれば、一方的な反対だけでは納得できない。少なくとも地域自らが何らかの努力を行う必要があるのではないだろうか。私自身も幼稚園と小学校で統合を経験したが、辛い思いや違和感を持った記憶はない。子供は順応性も高いため、統合に関しては心配ないと思われる。集団生活や部活動を通して心と体を鍛え、優秀な人材を育てていくことが重要であり、大勢の中で切磋琢磨し競争することや選択肢が広がることは、将来を担う子供たちの可能性を高めることにもつながる。様々な経験を積むことが必要であり、競争もなく成績順位は3年間同じとか、体育は個人競技のみで、サッカーもバレーボールもしたことがない。さらに、運動会の競技種目もままならないでは子供たちが可哀想だと思う。〈意見書〉

会長： 体育において、団体競技をしたことがない。体育の授業の在り方も研究して欲しいというぐらいで入れるとよいと思う。よいか。

委員： よい。

- いずれにせよメリット、デメリットがあると思う。生徒数が多ければ、コミュニケーション能力が高くなる。少なければ、学習能力が上がる。地域に学校が無くなれば、過疎化が進み、悪影響をもたらす。人口を増やすしかない。人が住みやすい環境づくりを見直す必要があるのではないか。子供の事を考えるなら、再編もやむをえない。〈意見書〉

会長： このとおりである。答申案の考えと同じと考える。よいか。

委員： よい。

- 定住対策をとっている中で、学校のない地域に定住する人はいないと思う。高梁、成羽学区の生徒数の多い学校の生徒を、少ない生徒数の学校へとする再編も考えると良いのではないか。定住を希望する人も、定住しやすいのではないかと思う。〈意見書〉

会長： 学校の存続と定住対策は一体のものであるという、先ほどのとおりである。生徒数の多い学校から、生徒数の少ない学校へとする学区の変更は、現実的ではない。

- 基本的な考え方として、再編が人数的な事であれば、かなり先の話であり、それまでは再編をするのかしないのか。根本的にしなくてよいのか、してはいけないのか分からない。〈教育委員会〉

会長： この答申では、再編しなさいという所が弱いという事であると思うが、できるだけ学校は維持したいことがこの答申案となっている。

- 小学校は残して欲しいという思いがあったので、小学校は残す方向であることが嬉しかった。〈備中〉

- 少子化で、子供の将来を考えると再編は必要と思うが、地域の事を考えると小学校はできるだけ残す努力をして欲しい。中学校は、高校、大学及び社会人になって行く過程において、人としての成長

が求められるため、多くの人とのふれあい、部活動などで精神面を磨いていくために再編を実施した方がよいと思う。〈意見書〉

○ 中学校になったら、大規模校がよいと思う。県南であれば、部活以外のクラブチームがあるが、高梁においてそれを選択しようと思えば、親が連れて行かねばならない。子供が選べる環境を作りたい。〈高梁東〉

会長： これも部活の在り方を研究して欲しいということである。

委員： 部活で子供が選べる環境を作ってやるということを重く受け止めなければならない。

会長： 限界はあるが、理想に近づけるように研究してもらおうということである。

○ 中学校は、マンモス校に成りすぎても良い教育はできない。部活動は、高梁北、高梁東、有漢中学校合同でということは考えられないか。〈高梁北〉

会長： 要望としては、入れた方がよいと思っている。

委員： このような意見があったということで、入れた方がよい。

○ 保護者の思いはいつも、子どもに最適な教育環境を与えたいということだけである。再編の賛成も反対も半数ずつである。

学校は、今の場所で学習面では、少人数である方が、目が行き届き、安心であるが、部活動を考えると選択肢がなく不安である。運動部に入らないと内申がよくないということだけである。

会長： 運動部に入らなくても内申は変わらない。そのように思われているということである。

○ 個人的には、中学校は再編せず、少人数でもやっていければよいと思っている。ただ、1学年が4人となる年があるので、それをどうするかは問題である。

地域に学校がなくなれば、活性化がなくなる。子供達のにぎやかな声を聞くだけで地域は明るくなる、人口減を食い止められる方法にもなる。今は核家族が多く、夫婦共働き世帯がほとんどであるので、地元にある学校があると通学の不安も減る。

多くの保護者が不安に思っている部活動については、例えば川上中学校にないサッカー部に所属したい保護者がいれば、高梁中学校のサッカー部に所属できて練習も可能な限り参加できるよう、ここは保護者も努力し、備北大会などの大会にも出場できるよう、市独自の配慮をしてもらえれば、再編しない選択肢も可能であると思う。それは文化部でも言えることではないか。とは言え、予算にも限りがあるので、無理は言えないが、一市民、一保護者として子どもが安心して勉強でき部活動を通じて心の成長をしていく環境整備を願っているの、様々な方法を審議していただければと思う。

〈意見書〉

会長： サッカー部の事も研究するということになるが、川上中学校の生徒が、高梁中学校と一緒に練習する事が現実的に可能なのか。

教育長： 中体連は、人数が足りない時、合同で出場が可能となるが、他校の生徒が、自校として出場することは認められていない。これから県内が、過疎化が進んだ場合、その対策として今後そういったことを認めるということも出てくるかもしれないが、高梁市が声を上げたからといって、すぐに実現することではないことは確かである。ただ、練習は、可能であると思う。

会長： 難しい問題であるが、一市一区が可能となれば、解決する問題である。

○ 中学校は、発達段階から考えると、人数を確保した方が、教育効果としては上がるという思いが拭い去れない。中学生の年齢では、数値で測れない人間関係形成能力や、大勢の中で鍛えられるものが、必要なのではないか。それこそが望む学力なのではないか。大きな視点で学力を考えた場合、この答申で小規模の中学校のまま続けるのがよいことなのかどうかと思う。〈教育委員会〉

会長： 答申（案）では、1学年の生徒数一桁が継続的な状態ということにしている。それで補えているとしてよいか。

委員： よい。

- 中学校において、1学年の生徒数一桁が継続的な場合という、継続的と言う状況はどのように考えているか。地元からの要望という場合とするしかないのかと思うが、一桁というのが気にかかる。

地元の意見も大切だが、子供の事を考えて教育委員会は動かなければならないというところから、一桁というところに疑問を感じる。部活だけでなく、学校行事にも支障をきたす。＜教育委員会＞

会長： 答申（案）では、1学年の生徒数一桁が継続的な状態ということにしている。そうならなくとも、PTAから要望が出ると準備委員会を設置するという事で、補うことができると思う。よいか。

委員： よい。

- P.2の諮問1の補足事項の中の準備委員会は、補足にしかないのか。補足であれば弱い気がする。＜備中＞

会長： これは、各委員に意見を聞きたい。答申（案）（の2頁）に補足事項が4つある。補足で少し付いているという感じである。答申の基準を運用するにあたって、この1～4までを厳正に順守して欲しいので、補足とするのは止めた方がよいと思うが、いかがか。

委員： 準備委員会で再編の枠組みは議論してもらい、準備委員会へ重きを置くとすればよいのではないかと思う。

会長： 補足事項の表現を変えて、上記の基準の運用に当たっては、厳正に合意形成に努めるなどと記載する。強い表現に変えていってよいか。

委員： よい。

- P.2諮問1の補足事項の②の中で、地元からの総意というのは、学校の保護者だけではだめなのか。＜川上＞

会長： 地元（学校、PTAやまちづくり、コミュニティ協議会等の総意）という文章は、各団体全てが、そうしようとならないと、準備委員会が設置できないと読み取れる。まちづくりは、遅く、PTAは早いと言った意見も出て来たように、PTAの総意で、先に出てくると思う。総意という表現を変えたい。

委員： 総意を取ってはどうか。

教育長： （補足事項②のカッコ内に）「学校」というのが入っているのはどうかと思う。「学校」が自ら再編というのは困る。小規模校ではPTAも2、3人ということもあるので、2、3人が言ったというのではいかがかと思うが、まとまった所から意見をもらったという事であると思う。

会長： 「学校」を削除し、「地元（PTAやまちづくり、コミュニティ協議会）から再編の要望があった場合は、上記の基本的な考え方によらず準備委員会を設置し、協議を開始する。」とするとしてよいか。

委員： よい。

- PTA、地域の意見を重視してほしい。＜意見書＞

会長： まちづくりも、コミュニティも地域に入るのでよいであろう。

- PTAと地域の意見のギャップがある。PTAに再編の声があっても、地域から、教育委員会が、再編は一桁が継続的な状態と書いているのではないかということになる。PTAは若いので、地域での意見は弱い。＜教育委員会＞

- 備中学校の再編に関して、保護者の同意はどれだけ得る必要があると考えているか。
 <議会全員協議会>
- 教育長：** 同意というところが、重い意見である。合意とか、全員の賛成が得られるとか、過半数があれば合意としていけばいいのではないかと揉めると思う。重く受け止めて、準備委員会ではできるだけ合意に近づける努力をすとか、100%はないと思うが、合意に向けて努力はするという精神はどこかに入れた方がよいと思う。
- 地元合意について明文化して欲しい。<議会全員協議会>
- 会長：** 合意というのはどういうことかであるが、割合にも難しい問題があるので、準備委員会では、合意形成に努力すとか、できるだけ合意形成を図るとかというように入れてよいか。
- 委員：** よい。
- 再編の時、バスについて約束をしたけれど、手当てが悪くなった。明文化しないと皆が不安を感じる。<成羽>
- 会長：** 実際に悪くなったのか。
- 教育長：** 2K以上とかバスに乗ればとか、距離の測り方を厳正にしたということはあるかもしれないが、基本的にはそういった事はない。
- 会長：** 明文化しなければならぬか。
- 教育長：** 規則などで明文化してある。それを違えたことはないと思うので、何か誤解があると思う。
- バス通学のメリット、デメリットも書いて欲しい。<成羽>
- 保護者が心配せずすむよう、小中学校の通学バス・路線バス利用の無料化の事も、答申に明記していただきたい。それが実現しなければ、高梁市の子供は、ますます減ってしまうと思う。
 <意見書>
- 会長：** 通学バスや路線バスは無料になっているのか。
- 学校教育課長：** なっている。
- 会長：** バスの事も意見が割とあるので、どこかに入れなければならないと思う。諮問1のところへ、一番下の所に、なお通学手段の確保については、十分な配慮をすとか入れなければならないのではないかと思う。入れてよいか。
- 委員：** よい。

諮問2

- 既存の教育を充実させる取組を推進することについて、勉強は、少人数でも可能であると思うが、部活や体育についてどのように考えているか。
- 現状：** 女子も一緒に体育をするので、男子は手を抜くことを指示されており、男子はつまらないと言っている。
- 部活も人数が足りない部は、他校と一緒にいる。
- 部活の先生も、顧問、副顧問と二人いない。
- 団体は、組織がなければ体育協会に入れないので、体育協会の大会に出場できない。市として考えていただきたい。<川上>
- 教育長：** 体育協会というところは、中体連と勘違いしてされているのではないか。
- 会長：** 部活動については、これまでの意見と同様に考える。

○ 小学校と小学校で交流する時間を増やして欲しい。その先で、ICT を用いた合同授業がより活発になり、実りあるものになると思える。早期に取り入れて、コミュニケーション能力の向上と今後の学校再編への備えとしていただきたい。〈意見書〉

会長： ICTについては、諮問2の1で「日常的な合同授業が可能となるICTをすべての学校に導入」というのがあるが、文部科学省から市町村もすぐに導入しなさいと言われていた。「日常的な合同授業が可能となるICTをすべての学校に導入」の「学校に」の後に「早期に」という言葉を入れてもよいか。

委員： よい。

○ ふるさと学習、伝統芸能について、再編の大きな枠の中でどのように行っていくのか。展開されるのか。答申案にどのように盛り込まれるのか。〈備中〉

教育長： 小さい地域が大きい学校へ行った時は、その小さい地域の伝統芸能はどうなるのかという質問であった。限界はあるのは確かという答えをした。ここではできれば、その学校がある程度（どの伝統芸能を行うかを）選べなければならないので、努力目標的な表現の方が学校もやりやすいと思う。あらゆる伝統芸能をその学校で守れというのは、無理であると思う。

委員： 伝統芸能は、地域で生きていく上で学ぶ必要があると思うが、各地域のものを全てというのは難しい。ふくらませるぐらいしかないであろう。

委員： 郷土の偉人に学ぶというのは、大事な事だと思う。ぜひ続けて欲しい。

会長： どこかへ「郷土の偉人に学ぶ」を入れる必要があるか。

教育長： 今のところ、5つの読み物を作った。山田方谷、綱島梁川、児島虎次郎、江草安彦、宮本隆の30頁くらいの物で、小学校高学年くらいを対象とし、中学校でも使え、少し加工したり、ふりがなを振るなどしたりすれば、小学校の低学年でも使える。各学校で道徳や、社会の時間に必ず使おうということで、ホームページに掲載し、インターネットで配信して、全校で取り組もうとしている。具体的に用意はできているので、しっかりやらせていただく。どのように書いていただいてもかまわない。

会長： どこかへ「郷土の偉人に学ぶ」を入れてよいか。

委員： よい。

○ 寮に入っていた人が、後年、隔離されているような気がしていたという意見があった。その学校だけに寮があるのはいかがか。デリケートな問題である。〈成羽〉

会長： 寮のことは研究の中で考えてもらうこととしてよいか。

委員： よい。

再編の枠組み

○ 高梁北中学校が高梁中学校と再編というようなことになる場合には、高梁中学校までは20km以上あるが、成羽中学校であれば10kmであるので、宇治小の子は、成羽中へ行くことも検討していただきたい。〈高梁北〉〈意見書〉

会長： 答申（案）7頁の再編の枠組みに関係する。7頁に示しているのは、一例であるので、準備委員会の中で話してもらえればよいと思う。入れないことでよいか。

委員： よい。

○ 現在の中学校区外への登校は可能なのか。部活等、子供が目指す特別な理由がなければダメなのか。現状で不可能であるなら、緩和して欲しい。子供達に環境だけでも平等に選ぶ権利を与えてあげたい。
<意見書>

会長： 校区の見直しということである。答申には直接関係ないので、入れると論点がずれてくる。特別な事情があれば、教育委員会が対応するということである。入れないでよいか。

委員： よい。

○ 東中学校と北中学校の再編では、数年後には生徒数が減少し、再度再編しなくてはならなくなるので、どちらの中学校も思い切って高梁中学校と再編するのがよいと思う。高梁中学校か成羽中学校かについては、PTA、地域との話し合いが必要と思う。学校再編については、関係機関だけでなく、該当地域の各住民に説明し、意見を聴取することが必要であると思う。<意見書>

会長： 準備委員会において出てくる意見であると思われる。

2 要望

○ 全国的に少子化が進む中で、再編は仕方がないと思うが、他校との合同学習を多く取り入れて欲しい。また、地元、PTA、学校、まちづくり、コミュニティ協議会との話し合いをしっかりと欲しい。<意見書>

会長： 準備委員会をしっかりと行ってほしい。合同学習を多く入れるというのは、諮問2で対応できるでよいか。

委員： よい。

○ 高梁独自の教育の特徴があれば、もっと移住推進の助けとなる。<有漢>

○ 教育行政だけでなく、総合的な行政で考えて欲しい。<成羽>

会長： 移住というのは、教育行政だけが単に考えるものではなく、市全体が考えなくてはならないことである。その考え方は、答申書の中にあると考えてよいか。

委員： よい。

○ PTAでの交流はないのか。飲み食いをしながらというような交流を行って欲しい。そのようなことが、人間関係づくりには大切である。<成羽>

会長： 準備委員会の時にも、一つの方法として出てくるのではないだろうか。

○ 中井中学校の再編の時、町が二分した。社会教育課はあるが、学校教育課も普段から一般の方の教育行政の関わりがあればよいと思う。再編が、目の前に近づいてからとなると理解されず、感情的になる。<高梁北>

会長： 答申案では、3年前としているので、十分に時間はあると思う。

○ 部活動において、団体競技ばかりを推進するのはいかがなものか。個人競技や、文化的なものなど個性を活かす競技の推進も入れて欲しい。<成羽><高梁東>

会長： 個の競技や、文化的なものを配慮する、考えるということで、要望に入れてよいか。

委員： よい。

○ 大規模校となれば、部活動の顧問、教科担任等の関係でも教員配置が問題なく行えるものなのか。部活動に携わる教員の異動先が、制約されるようでは、本末転倒になりかねない。

外部講師の予算措置はできるのか。

会長：市で外部講師を雇っている場合もある。努力はしている。

部活動の顧問の活動時間を2割程度削減するような動きがあるように聞いている。

小規模校の部活ができない現状からすると、大規模校となれば、部活動もでき、部活動の選択肢も広がる単純に思われがちであるが、部活動のあるべき姿を示していただきたい。〈意見書〉

会長：部活動の中に含めていくとしてよいか。

委員：よい。

- バス通学の生徒は、3年生は部活動があるが、1年生は部活動がないため、3年生に合わせたバスの時間まで待たなければならない。二便にしてもらえないか。〈成羽〉

会長：交通手段の確保の部分でこの事も含めて考えてもらおうとしてよいか。

委員：よい。

- 具合が悪くなった場合、すぐに保護者に迎えに来るよう言われる。保護者も大変なので、タクシーで送るなど配慮してもらえないか。〈成羽〉

会長：学校と話して欲しい。

- 路線バスを利用する場合（今はこれは無料になっているが）、例えば子供が一人で月5,000円通学にかかるのであれば、3人では月15,000円であり、これが何年も続くのである。再編とならず、地元の小中学校に徒歩通学さえできれば、必要ない費用である。〈意見書〉

会長：できるだけ補助をとということであるが、既に行われているようである。

- 通学に高額なスクールバスを走らせることは止めて、介護施設等が運営に使用している大きさの車にすれば、少ない費用で効果が生まれると考える。〈意見書〉

会長：バス通学となった場合に考えて欲しい。人数によっては、バスの大きさも配慮が必要である。

- 教員の配置数を減らさないよう働きかけることはできないのか。〈高梁〉

会長：市も県と一緒に国へ要望は出しているが、難しい問題であると思う。

- Uターンしても、地域に小、中学校がなければどうするのということになる。児童生徒数が減っても、先生の人数は減らさないということを要望して欲しい。〈川上〉

会長：文部科学省は、なかなかそうはしない。市、県で要望を続けていくということである。

- 中井小は、6年生がいないため、変則複式となっている。教員数は決まっていると思うが、教員の目が届くようお願いしたい。〈高梁北〉

会長：教育委員会の対応の中で検討してほしい。

- 全てが子供の事なので、子供の意見も聞いてほしい。〈成羽、高梁東、備中〉

会長：強い要望だった。子供の学校の満足度をより高めて欲しいということを入れたほうがよいのではないかと思う。親や地域ばかりでなく、子供が中心である。子供の思いということはどこかに入れた方がよい。いかがか。

委員：よい。

- 審議が終わらなかつたら、3月で審議を終わらせず、延長を。国の学校教育予算が低すぎる。要望していくと共に、智恵を出し合いましょう。〈高梁、議会全員協議会〉

会長：日本の教育費というのは非常に低い。今日の意見を成文化し、次回示して終わりにしたいと思っている。

○ この意見聴取会の開催は、どういう方に呼び掛けをしているのか。PTAを差し置いてまちづくりというのはいかなるものか。〈川上〉

会長： 意見聴取会は、全市民に対して呼び掛けたものである。答申が完成し、PTAから要請があれば出向いて説明するようにすればよい。

○ PTAには、答申案の説明をして回るべきではないか。〈川上〉

○ PTAはPTAで意見を出し合い、まちづくりはまちづくりで意見を出し合い、それから互いの意見を合わせればよい。〈川上〉

会長： 具体的には、準備委員会へ向けての意見調整が出てくると思う。

3 質問

○ 基準に該当する再編した方がよい地域、学校があるか。〈有漢〉

会長： 川上中が一番早いと答えている。

○ 全校で2学級以下という状態とはどのような状態か。〈有漢〉

会長： 説明済みである。

○ 中学校では、一定の規模が必要というのは、どのくらいの規模なのか。〈有漢〉

会長： 答申（案）に書いているとおりである。

○ 増える見込みがある場合というのはどういうことか。〈成羽〉

会長： 宇治などは増えているなどの事例を説明した。

○ 教育効果の保障が困難というのは、どのような状況なのか。その状況となっているかどうかの判断は、どのように下すのか。〈高梁〉

会長： 事務局から説明済みである。

○ 中学校が再編する場合、教員配置が最も困ることになるところではないかと思う。教員配置はどう変わるのか。〈高梁〉

会長： 事務局から説明済みである。

○ 基準を下回った場合、すぐに再編というわけではないと言う理解でよいか。〈高梁〉

会長： 準備委員会を経てということである。

○ 中学校で1学年の生徒数一桁の状態というのは、今の状態であるとどこで判断するのか。3年前となるといつからになるのか。〈川上〉

会長： 事務局から回答済みである。

○ P.2の諮問1の補足事項の④において、通学時間がおおむね1時間というのは、小学生にはきついと思うが、P.5の答申に向けた議論過程と検討方針の中では、小学校はできるかぎり存続と書いてあるので、大丈夫であると思うが、1時間というのがどのように決まってきたのか聞きたい。〈備中〉

会長： 文部科学省の指針にあると説明済みである。

○ 児童数と言われた時に、小学校へ就学するには年齢制限はあるのか。〈備中〉

会長： 事務局から回答済みである。

○ 小規模校のデメリットがあるにも関わらず、学力調査において、県内トップとなるのは、小規模校にどのようなメリットがあるからなのか。〈高梁東〉

会長： 事務局から回答済みである。

- 諮問2において、ICTによる合同授業は、何年後に行われる予定なのか。小中連携強化はどのようなことをするのか。〈備中〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- ふるさと学習、郷土芸能、伝統芸能は、何を想定しているか。〈議会全員協議会〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- この諮問2の三項目は、答申が出ると同時に、これに全て力を入れてやっていく、検討し始めるということになるのか。〈教育委員会〉
- 会長：** 教育委員会が、この答申を受けて、すぐに行わなければならないかそうでないかを判別し、取り組んでいくことである。
- 部活動をしたくてもバスの時間があるからできないというようなことや、親が迎えに来るようなことがあるのか。〈成羽〉
- 会長：** 事務局から回答済みである
- 再編後の通学手段でバス通学となった場合、市の補助があるのか。親の負担が出てくるのか。〈高梁東〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- 備中中学校の再編の時も第2次教育振興計画のような計画があったのか。〈成羽〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- 備中中学校再編の時、どのような問題が出て来たか。〈高梁〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- 最近の小学校、中学校の再編の再編までの流れや再編後の状況を教えて欲しい。〈高梁〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- 備中中学校再編の生徒のその後の様子が知りたい。〈川上〉
- 会長：** 事務局から回答済みである。
- 備中中学校の再編の時の教訓はどう生かされているか。〈議会全員協議会〉
- 会長：** その教訓から、今審議会を行っていることを、事務局から回答済みである。
- 学校の児童生徒数で、児童生徒数が増えている学校がある。増えている理由は何であると思うか。〈高梁〉
- 会長：** 住宅が出来たからなどの回答をしている。
- 予算関係を考慮しているのか。〈議会全員協議会〉
- 会長：** 具体的になってから予算が生じる。
- 4 その他
- 将来的な教育計画を立案する事は、大変重要な事である。〈意見書〉
- 成羽は、小学校中学校の再編については、既に整理されている。残っているのは旧高梁市内であり、そのためにこの審議会が設置されていると思っている。〈成羽〉
- 寮制度については、教員の時に保護者から聞いた「(中学になったら寮生活なので、) 私達が、子供と生活できるのは12年である。」という言葉が心に残っている。〈成羽〉

- 備中中学校の再編の時、成羽の地元知らせてくれなかったという意見があった。〈成羽〉
- 成羽に行くとき遠慮してしまうという声を聞いた。成羽に来てよかったという雰囲気づくりも大切である。〈成羽〉
- 新見市の再編は計画的されたが、高梁市は計画的でなかった。このような審議会が備中中学校の再編前に行われなかったことが残念でならない。過去の事は言いたくないが、話の進め方に問題があった。全員が納得することはあり得ないが、常識的に納得、理解しなければ、辛い思いをする。理解できなかったが、提出署名1, 177名分を分析された。委員長は、反対の方はおられませんと言われたが、我々は、方法論の事を主張していた。〈備中〉
- 備中中学校跡地は、企業誘致という意見がまとまり、提案したが、その後どうなったのか分からず、気を揉んでいる。上手くいくのであれば、一日も早くスタートしなければ、我々の傷に塩を塗ることになる。展望を教えて欲しい。〈備中〉
会長： 事務局から回答済みである。
- 備中中学校の再編に尽力してくれた方々に、再編後の子供の様子を伝える場があるとよい。〈備中〉
- 備中中学校再編の時に、もう少し説明があったらよかったなと思った。〈備中〉
- 保育所を閉じる時、3人以上になった場合再開するとのことだったが、今は反故になっている。〈成羽〉
会長： こども未来課へ意見について報告済みである。
- 学区が広がったため、教職員も大変になった。〈高梁東〉
- 過疎、少子高齢化、人口減少は、日本の喫緊の課題でありながら、出口の見えない、後回しにして来てしまった問題であると思う。松原幼稚園の休園問題では、当事者にとっては重要であっても、それ以外の人にとっては、今一つ実感のないことであることがよく分かった。ずっと前から予想できた事態であっても、実際に当事者にならなければ、事態の深刻さに気付かない人が多いように感じた。今からでも市民にしっかり周知し、真剣な話し合いが必要だと思った。〈意見書〉

会長	15、16頁は、事務局が項目別に意見をまとめたもので、重複している。意見を一言ずつ頂きたい。
委員	P T Aの中で数年後の再編を睨みながら、話し合いを続けている。部活の事が大きい。よい解決策が見いだせればよいと思う。
委員	部活は、先生の負担が大きいので、そちらも考えないといけない。スポーツクラブの指導員に依頼して指導してもらうなど外部の支援を有効に活用するのも一つである。再編すると地域の活力がなくなる。それを考えると難しい問題である。当事者の負担は大きい。この答申が助けになればよいと思う。
委員	自分の地域では、再編にピンときていないが、このような意見聴取会があれば、P T Aの時にも、再編の話も出てきているのかなというような話もできる。答申が出れば、少しは関心が高まると思う。学校がどこになるかが論点となるだろう。意見聴取会は、色々な意見を聞くことができよかった。各地域の意見も参考にしながら、話をしていきたい

	い。
委員	部活は、人数が少ないより多い方がよい。
委員	再編に対して、地域で温度差がある。どこまでを学校に求めるのかというところもある。危機的状況にはなっていないと感じた。
委員	高梁の行政施策を定住と考えた時、学校がなければならない。ギャップがある。教育に対する理念と考え方がなければならない。
委員	部活は、難しいと思うが、よく研究して、一市一区を進めて欲しい。
	答申の中で、準備委員会が立ち上がることとなっているが、これは誰が火付け役となるのか。誰がリードし、まとめ、進めていくのが非常に大事になってくる。準備委員会で決めなければならない事が多いようなので、これはきちんと決めておかなければならないと思う。
会長	P T Aから話が出た場合、教育委員会が事務局的な事を担いながら、まちづくりの委員にも協力してもらいながら準備委員会を描いていくというイメージを持っている。行政にも入ってもらわなければならないし、将来構想もふまえながら、合意形成に努めていくということになると思う。
教育長	準備委員会と言っても、様々な意見を持った人がいるので、中で意見が割れ、地域、世代間でギクシャクした関係になり、子供のために再編を考えていくのに、数人の意見で地域を壊す気かというような事も聞いた。行政機関が事務局をし、調整などは行う必要があると思う。そうした中で、合意に至るまでしっかり議論を重ね、100%にいかないまでも、近づける努力をする。3年前から行う。色々なところから代表をお願いするといったことになると思う。
会長	文部科学省は、合意を取ることを言っているが、これが一番大変なことである。各団体でまとまった意見を、準備委員会で議論していただく。もめることもあるかもしれないが、一番の根底にあるのは子供の教育である。地域から学校がなくなるということは大変な事だが、それを乗り越え、子供の事を考えてやれるかどうかである。どうしてもP T Aとの軋轢は生じてくると思う。地域の意見も重視しなければならない。行政主導は古い。時代は変わっている。地域を重視した準備委員会ではないかと思うところである。
委員	今回の会で加筆修正していただければ、次回はなくてもよいと思っている。再編時についての話しを聞くことができたのもよかった。再編後に、その後の状況などが聞くことができる機会があったらよかったのではないかと思った。
委員	学校の学校評議員会があった。地元の学校は再編しなければならないだろう。中学校の位置に小中一貫校、こども園を加えて学園というような地域での在り方の構想を練っている。地域主導の在り方を作り出していくということや、小中学校を残して欲しいということについて、時間をかけて話をした。
委員	意見聴取会への参加者は、他の地域が大半であった。小学校は残して欲しいという希望がある。いずれは再編になるというのに、地元は危機感がない。
委員	P T Aの意見は出にくい。P T Aだけで集まって話し合いをしなければいけない。
委員	地元の危機感がない。小学校は残して欲しい。今後3、4名の児童が増えるので、みなんのんびりしている。

4. その他

次回、2月27日（火）15時

5. 閉会（副会長）

長きに渡った審議会も次回で最終回となった。意見聴取会では各地域の様々な意見を聞くことができてよかったと思う。この意見を入れた素晴らしい答申にしたいと思うので、次回の最終の審議会への出席もお願いする。